

富山大学人文学部同窓会会報

人文

No. 31

2009. 10. 1

富山大学人文学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電話 (076) 445-6143

FAX (076) 445-6141

E-mail alumnil@hmtu-toyama.ac.jp

題字 大島文雄先生

人心を掴み、したたかに演ず

富山大学人文学部教授

磯部 祐子



▶水上に建つ戯台
クリークの張り巡らされた江南の農村では、かつて人々は舟上から伝統劇を楽しんだ。魯迅曰く、「中国の芝居は鳴り物が騒々しく、役者は大声で歌いまくり、舞台一面に跳ね回る。見るものにはめまいがする程喧騒を極めたもので、劇場には真に不向きなものである。しかし、これをもし、野外の広々とした所で遠くから見れば、またおのずと趣がある。」と。



▶割れ鍋に綴じ蓋（原題…巧姻縁）
農村の伝統劇は、生命力に溢れる。多くは、地方の文化局が把握していない民間の劇団によって演じられている。この日は、村廟に祀られた神の誕生日。村の空き地に建てられた仮設舞台（草台）では「巧姻縁」が演じられていた。仲人が、男女双方の欠点をひた隠し結びつけようとする喜劇である。

今年の総会でご講演いただきます。（詳細は八ページ参照）

ご挨拶

人文学部をめぐる最近の状況など

人文学部長 山口 幸祐



前学部長の小川洋通先生の定年退職にともない、本年4月1日から人文学部長を務めております。同窓会の皆様方に一言ご挨拶申し上げます。

私は、2003年4月1日から2004年3月31日まで、矢沢英一学部長の定年退官後に一度学部長職を務めておりますが、今回、思いもかけず、再登板ということになってしまいました。そうなるにはそれなりの事情があるのかとは思いますが、個人的には困惑せざるを得ないのが偽らざる心境でした。

しかし、学部の方々の

支援をいただけることにもなり、微力ながらお引き受けすることにした次第です。どうぞ宜しくお願い致します。

振り返ると、2003年は5月に富山県内3国立大学の再編・統合に合意、調印し、7月には「国立大学法人法」が成立して、2004年4月1日から国立大学法人となる激動の時期でした。その時に、私は、「明治以来の大改革ともいわれる法人化移行に際して、今、大学に何が必要か、何をどう改革すべきか、真剣に考え、そしてまた、自主・自律、社会的使命、さらには大学の自治、学問の自由などについて、私たちは今こそ自ら問う必要があると思います。」また、「人文学部のような基礎科学に属する分野は、効率的でもなければ経営にもなじまないの

は明らかです。人文学部は人類の知的資産や人間形成に大きな力を注ぐ専門分野から成り立っており、現代のような社会システムが混乱している時代にこそ重要な役割を果たすことができ

ると思われれます。その成果が目に見える形で現れてこないからという理由で軽視されていくとすれば、人類の未来にとって大きな不幸と言わざるを得ません。また、国民の教育を受ける権利、教育の機会均等に果たしてきた国立大学の役割も十分受け止めていかなければならないはずで

大きく関わる事柄は、新聞等の報道でご存じの方も多いとは思いますが、人文社会芸術系総合大学院構想でしょう。

2005年10月の県内国立3大学統合後の課題だった総合大学院構想ですが、本年5月末に文部科学省へ設置計画書を申請していたところ、8月5日に「警告」の審査意見の伝達がありました。「警告」とは、審査の結果、設置計画全般あるいは設置計画の根幹に係る是正意見が付されるなど、申請内容を抜本的に見直す必要があるが、補正申請の提出期限までに補正される見込みがなく、審査を継続すれば「不可」となるおそれがあると認められる場合に伝達されるものです。

認められ、学長と役員会からは2011年度（以降）の設置に向けて計画を再度検討することが提案されました。

現在、今後の方向性をめぐって検討中ですが、決定までにはまだまだ紆余曲折がありそうです。人文学部としても、人芸芸術系学部が協力して総合大学院を設置するか、あるいは、現在の人文科学研究科を整備し充実させるか思案のしどころです。また、この度の衆議院議員選挙の結果、民主党が政権を担うことになって、国の行政がどう変わるのか、文教政策に変化はあるのか、そして、富山大学全体の方向性がどうなるのか、先が読めない混沌状態の中にあつて、人文系学部としてどうあるべきなのかなど、課題は山積していますが、教職員一同、同窓会の皆様のご指導とご支援、ご協力のもと、教育研究機関としての役割と責任を果たして参りたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。

ところで、現在、人文学部に

タイムカプセルを開けて

坂川 京暢子 (33回比較文化)



去る六月二十七日、富山観光ホテルにて、比較文化・文化構造論コースの同窓会が開催されました。松島英子先生、小澤浩先生と文化人類学コースの赤阪賢先生、松島先生の御夫君でいらっしゃる濱田正美先生の御臨席をいただき、一九七九年入学から一九九五年入学の人たちまで、総勢六十六名の参加で、なかなか盛大な会でありました。

年代別のテーブル分けて、私などはコース最初期の学生だったのだと認識した次第ですが、同じテーブルの人たちのそんなに昔と変わっていない顔を見てみると、この人たちとあの頃、演習室という空間と時間を共に過ごしていたんだと、しみじみ思ったのです。



先生方から、コースの思い出話の披露があり、当時の写真のスライド上映がされたのですが、その中に四半世紀も昔の自分や友人の姿を見つけ、なんとも懐かしい気持ちでした。あの頃、私は確かにあそこになっていたのだと再確認したということかもしれせん。

横井清先生の声のメッセージを聞きながら、当時の学生たちのあまりに自由な発想を、興味を持って受けとめて下さった懐の深さを思い出しました。比較文化は、本当に何でもありでした。卒業論文のテーマを見ても同類項はほとんどなかったと思います。「何でもいい」「興味のあることに向かつていけばいい」「そんなふうに、自己が肯定される場所でした。」

私たちの学年の卒業を以て、比較文化コースは終了し、次年度からは文化構造論と名称が変更になると知らされたときは、帰る所がなくなるような淋しさを覚えたのですが、その文化構造論コースもなくなった今、二度目の喪失感を感じています。ともあれ、同窓会はうれしいひと時でした。幹事をつとめて下さった方々のお骨折りに深く感謝いたします。

最後に、コース同窓会事務局のメールアドレスをお知らせします。(愛知県一宮市在住)

コース同窓会事務局メールアドレス

bunkan@toyama.email.ne.jp

研究室

心理学コース

准教授 仲嶺 裕子

卒業生のみなさまには、お元気でご活躍のことと拝察申し上げます。心理学研究室は平成五年の開設以来、今年で十七年目をむかえました。卒業生の進路は、公務員から一般企業、病院等の心理士、大学の教育研究職など幅広く、卒業生のみなさまのご活躍ぶりに触れるたび、いつも元気づけられております。また大学で習得された心理学的能力は、職業生活だけでなく、ご家庭や地域社会においても、実践的に役立てておられることと存じます。

現在の心理学研究室の教員は、開設時からの海老原直邦教授(実験・認知心理学)、平成十四年に着任された黒川光流准教授(社会心理学)、そして平成十五年に着任した私(臨床心理学)の三名です。たしかな基礎にもとづく体系的な専門教育を重視する姿勢は、開設当初から今も変わらず継承されています。学生の心理学への関心はますます高まり、二年生十三名、三年生十九名、四年生十四名、院生二名が心理学を専攻しています。研究テーマは、認知と感情、音楽の心的過程への効果、社会的状況の影響、心理的健康や適応など、多岐に渡っています。希望者は、病院での音楽療法実践や、適応指導教室・児童相談所等における心理実習を行うことが可能な態勢となっており、現代社会のこのろの問題への応用にも関心を深めて学んでいます。

卒業生のみなさまのご活躍をお聞きすることは、教員や学生にとって大変励みになります。懇親の機会が少なく残念ですが、ぜひお気軽に近況をお聞かせいただければ幸いです。末筆ながら、みなさまのますますのご多幸をお祈り申し上げます。



人文学科

人文学部の現在

人間科学講座

哲学・人間学コース
言語学・心理学コース

歴史文化講座

歴史文化コース

社会文化講座

社会文化コース

国際文化論講座

国際文化論コース

東アジア言語文化講座

東アジア言語文化コース

英米言語文化講座

英米言語文化コース

ヨーロッパ言語文化講座

ヨーロッパ言語文化コース

※一年次は、教養科目と共通基礎科目などを履修し、二年次から九つのいずれかのコースに所属します。

現在の富山大学人文学部人文学科は七つの講座九つのコースからなり、約七十五名の教員が幅広く多彩な研究や授業を充実に行っています。

哲学・人間学コース

「哲学」では、世界観・人間存在・認識論・芸術論など、西洋哲学の伝統的テーマに取り組みます。「人間学」では、倫理思想・宗教思想のほかに、社会思想や、芸術文化についても研究。生命倫理、ジェンダーなど、倫理的諸課題にも取り組みます。

教授：木下 喬 現象学と解釈学の観点から、意識・身体・言語・行為などにまつわる問題を研究。
准教授：永井 龍男 プラトン、アリストテレスなど古代ギリシャ哲学を研究。
教授：岡村 信孝 事実認識や価値判断の客観性の確立がどう可能かというテーマを追求。
教授：岩井 瑞枝 十六世紀のフランスとイタリアを中心に、宗教改革期の芸術と社会について考察。

教授：松崎 一平 アウグスティヌスの著書を中心に、西洋古典並びに中世キリスト教の人間観を考察。
准教授：田畑 真美 日本の福祉の思想について倫理思想史の観点から研究。

言語学コース

「言語学」と「日本語教育学」を設けています。ことばを科学的に捉える視点と、ことばに関する科学的な知識を身につけることに重点を置き、幅広く言語学の諸テーマを学び研究していくための基本的知見を修得できる環境を提供します。

教授：湯川 純幸 人間のコミュニケーション行動の特質や働きを、談話分析などの方法により研究。
教授：呉人 恵 シベリア北東部のコリヤーク語を、現地調査により記述的に研究。

准教授：樋野 幸男 日本語の書記について、理論体系的構築を目指す。
教授：山崎けい子 留学生専門教育担当。日本語教育を、第三言語の観点から研究。
准教授：安藤 智子 ロシア語と日本語の韻律的特徴について分析。

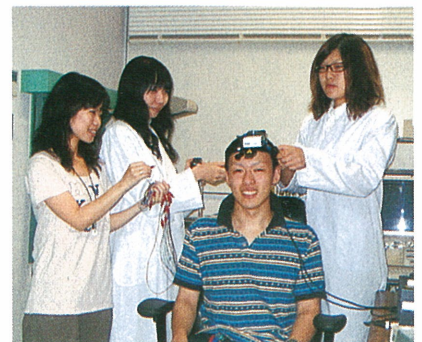
心理学コース

心理学の専門家に必要とされる基礎的能力の養成を主な教育目標としています。認知・社会・臨床など各分野の心理学の理論や方法について広く学び、心を多面的にとらえる目を養います。

教授：海老原直那 実験心理学の手法を用いる認知心理学が専門。音楽療法の心理学研究や実践活動も行う。
准教授：仲嶺 裕子 臨床心理学が専門。心理療法やカウンセリングを実践。
准教授：黒川 光流 社会心理学・集団力学

歴史文化コース

が専門。対人葛藤の問題を研究。



歴史への興味や探究心を原動力に、奥が深く高度の専門性を持つ歴史研究を目指します。コース共通の講義のほか、日本史、東洋史、西洋史、考古学の各分野のスタッフが最先端の研究成果を踏まえて演習や実習などを指導しています。
教授：鈴木 景二 日本古代の社会文化史が専門。立山信仰や北陸地域の歴史も研究。
准教授：熊谷 隆之 日本中世の政治・社会史が専門。荘園や古文書学にも取り組む。
教授：澤田 稔 イスラーム時代の中東・アジア・西アジアにおける、政治と宗教との関わりを中心に研究。
教授：徳永 洋介 宋元時代を中心に、中国社会の特質を法制の分野から考察。
准教授：澁谷 由里 張作霖政権時期を中心とする中国東北地方の近現代史を研究。
准教授：川村 明賢 イギリス近・現代史、帝国史が専門。
教授：黒崎 直 日本考古学が専門。古代の宮都とそれに関わる官衙や寺院、庭園

集落、墳墓などを主として研究。
 准教授：高橋 浩一 日本考古学が専門。古墳時代の地域間関係について研究。

社会文化コース

相互に関係の深い五つの専門分野「社会学分野」「人文地理学分野」「文化人類学分野」「国際関係論分野」「比較文化分野」があり、学生は一つの分野を選択し、深く専門的に学びます。

教授：佐藤 裕 障害者差別、性差別、部落差別などを社会的に分析。
 准教授：伊藤 智樹 アルコール依存や死別体験者などの自助グループを研究。
 准教授：大西 宏治 地理学の立場から子どもたちの生活空間や子育て支援を研究。
 准教授：竹内 潔 アフリカ熱帯雨林地域の狩猟採集民を対象に人類学的調査研究。
 准教授：都留 泰作 アフリカ熱帯雨林の狩猟採集民の歌・踊り・など分析。
 教授：竹村 卓 国際関係論の基本である安全保障や冷戦などについて、歴史をベースに検討。
 准教授：林 夏生 国境をこえたヒトや文化の移動が及ぼす影響を研究。
 教授：金子 幸代 森鷗外研究およびフ



エミニズム文芸時評。

国際文化論コース

日本、中国、朝鮮、ロシアおよび米国などの諸文化を比較文化論や交流・関係論の観点から学びます。異文化間の相互理解、交流の歴史と現状の諸問題を、多様な分野の研究手法を用いて、総合的に明らかにすることを目指します。

教授：立川 健治 近代日本を競馬という出来事から読み解く作業を行う。
 教授：吉田 俊則 近代以降のロシア・東欧諸国の文化・社会論が専門。
 教授：鈴木 信昭 朝鮮近世史が専門。イエズス会宣教師らの文化を東アジアの人々がどう受容したかなど研究。
 教授：末岡 宏 近代中国思想史が専門。近現代中国の文化にも関心。
 准教授：齋藤 大紀 中国近代文学を中心に研究。少数民族文化にも関心。
 准教授：青木 恭子 十九世紀末から二十世紀初頭のロシア史が専門。
 准教授：小野 直子 アメリカ史が専門。人間の身体と社会との関係に関心。

東アジア言語文化コース

日本語学・日本文学・朝鮮言語文化・中国言語文化の4つの教育研究分野から成っています。そして、日本・朝鮮・中国を中心に、伝統的な学問研究を重視しながら、現代的な視点からも一層の解明を行います。

教授：小助川貞次 日本および東アジア

漢字圏では漢字漢文をどのように受容してきたのかを、漢字・古写本を材料に研究。
 准教授：中井 精一 社会の変化が方言をどのように変えていくのかを研究。

教授：山口 幸祐 明治大正時代の文学。最近では、樋口一葉を中心にした同時代文学と少年文学に関心。
 教授：二村 文人 江戸文学の研究。落語・講談など口語文学と俳諧を中心に、近代のもつ可能性について考察。
 教授：長 長 平安時代物語の研究。特に源氏物語がどのように創作されていたかに着目。
 准教授：田村 俊介 「徒然草」「平家」など中世文学の研究。
 准教授：和田とも美 二十世紀前半の朝鮮半島での小説の役割を研究。
 講師：上保 敏 朝鮮語の形態論・統語論や、それらの体系の変遷について関心。
 教授：磯部 祐子 小説や戯曲を中心に、成立やアジア諸国への影響などに関心。
 教授：森賀 一恵 古代中国語の語法と意義解釈の手段としての音注に興味。
 准教授：大野 圭介 先秦兩漢時代を中心とする中国古典文学の研究。
 准教授：梁 有紀 現代中国文学の研究。特に女性作家、張愛玲を中心に研究。
 准教授：夏 嵐 外国語教育専任教員。中国版の近代劇である話劇の研究。

英米言語文化コース

文学作品や新聞・雑誌、映画等の様々な資料研究を通して、英語という言語と英米の文化を多様な観点から学び、豊かな国際感覚を培うことを目標とします。また、自らも英語で発信する能力を養うことにも意を注いでいます。

教授：鈴木 孝志 現代英文学の潮流をジェイムズ・ジョイスを軸として主としてアイルランドの視点から研究。
 教授：草薙 太郎 シェイクスピアを中心に、英米言語文化の思想性、社会性を明らかにしていく。

教授：奥村 譲 後期中世英語で書かれた写本を対象に、方言、写本転写の様式、写本の派生関係を研究。
 准教授：恒川 正巳 二十世紀イギリスのE. M. フォースターを中心に研究。
 教授：村上 恭子 ポストモダン主義の特徴を、アメリカ現代小説や文化関係の批評等を主な手がかりに分析。
 教授：高安 和子 現代英語の統語構造を研究。種々の構文を言語理論で分析。
 教授：藤田 秀樹 二十世紀のアメリカ小説と演劇を研究。アメリカ映画・日本におけるアメリカ文化にも関心。
 教授：大原ちなみ ホロコースト文学や二十世紀アメリカのユダヤ系作家の小説を中心に研究。
 教授：赤尾 千波 アフリカン・アメリカンの文化・文学を研究。
 教授：ウィリアム ホールデン 外国語教育専任教員。学習能力関係のアプローチやストラテジズについて研究。



ヨーロッパ言語文化コース

ドイツ言語文化・フランス言語文化・ロシア言語文化の三つの教育研究分野から成ります。学生はいずれかを専攻。外国語能力に加えて、広い文化的視野と専門的知識を備えた国際的に活躍できる人材を育成します。

教授：山本 孝一 ヘルマン ヘッセを中心に二十世紀のドイツ文学を研究。
 教授：北村 純一 バラードと呼ばれる物語性のある詩の歴史的展開の研究。
 教授：別本 明夫 詩的リアリズムの文学、市民階層の作家の散文作品を中心に研究。
 教授：宮内 伸子 ドイツ近代文学を研究。作品の魅力を、使用されたことばにこだわって読むことで解明。
 准教授：黒田 康 分離・非分離動詞の意味が形成されるメカニズムについて研究。
 准教授：阿部 美規 ドイツ語が歴史上どのように変化したのかなどを研究。

講師：カベラ エーファ 外国語教育専任教員。言語哲学・比較倫理学を研究。
 教授：村井 文夫 フランス十八世紀後半の文学および思想、文化史の問題を研究。ラファディオ ハーンも研究。
 准教授：中島 淑恵 十九・二十世紀初頭にかけてのフランスの文化に関心。
 教授：中澤 敦夫 古い時代のロシアの文学、文化、民俗、歴史を研究。
 准教授：武田 昭文 十九・二十世紀のロシア文学を物語論、比較論等の視点で研究。
 教授：カザケーウイチ ウェチエスラフ・ステパノヴィチ 外国語教育専任教員。ロシア詩の創作および研究、ロシア近現代文学の研究。

言葉の間に

五十嵐純子

(37回文化構造)

富大在学中は日本語教育能力検定試験に合格し、卒業後は台湾、米国、タイなどで日本語教師を務めた。現在は米国ワシントン州の田舎町でフリーランスの翻訳業に携わっている。

子供の頃から言葉が好きだった。本を読むのも、文章の音読も大好き。高校では朗読に取り組んだ。声に出す以上に好きなのが、文章の行間を読み、言葉と言葉の間に込められたものを

探る作業。

文化人類学のテキストだったか、言葉は文化を表すものというくだりがあった。鮮烈な印象を受けた。言われてみれば当たり前のことながら、とても大きな発見をしたような気がした。

米国に引越してきてしばらくは常に自分の考えを言う習慣に疲れた。いいタイミングで考えが言えないとおばかさん扱いされる。かといってあれこれ考えを言うと、受けはよくても、

自分が単に口数の多い、浅はかな人間のような気がしてくるというジレンマ。

言葉の重みという面もあるが、それよりもコミュニケーションで大切にされることの違いだ。

米国では言葉を発する行為そのものが意味を持つようで、「love you」と言ってくれないから離婚するというのがいい例だ。逆に言えば、言い表さなければ相手に伝わらないということ。

同様のことは日本や日本語でもあるが、意思疎通への影響の程度や暗黙のうちに期待される頻度が異なる。

カリフォルニアの Monterey



右端が筆者

Institute of International Studies で国際環境政策修士を取る頃にはあまり抵抗なく考えを言えるようになった。ただ、英語でのコミュニケーションの

スタイルのまま日本人に日本語で話をして、言いすぎてしまったと後悔することがある。うまく切替えるのは難しい。

職業の翻訳ではマーケティングと市場調査に関する文書、中でも広告用文章を練るためのプロジェクトを多く手がけている。言葉の捉えられ方や使われ方から時代の気分まで見えてくるので面白い。

翻訳のもうひとつの柱が日本語教育関連で、最近では国際交流基金制作の「みんなの教材サイト」や映像教材「エリンが挑戦!」にほんごできます。」にかかわった。微力ながら世界中の先生方や学習者の役に立てることが嬉しい。

日本語と英語、それぞれ言葉の間やその周辺に見え隠れするもの、そしてふたつの言語の間に思いをめぐらせ、考えては、日々楽しんでいる。

(アメリカ在住)

1

<http://minnanokyoza.jp/kyo-zai/home/ja/render.do>

2

<http://www.jpif.go.jp/j/urawa/j/sorcs/erin/index.html>

研究室

社会文化コース

(比較文学)

教授 金子幸代

本研究室は比較文学を専門的に学べる全国的にも珍しい研究室です。現在、院生を筆頭に、一七名の学生が元気に学んでいます。学年を超えて仲がよく、切磋琢磨して伸びていくのが比較文学研究室の特色です。就職先は公務員、出版や印刷関係、町興しの企業、教師、塾講師、新聞記者・学芸員と多彩です。

比較文学講読の授業では、私の専門である森鷗外を中心に近現代の文学作品を研究しています。また比較文学演習では演劇をテーマに取り上げ、授業の集大成として実際に演劇を上演しています。



これまで演じた作品は明治期の「演芸画報」に掲載されながら未上演であった福田琴梅の『虚栄心』、鷗外の創作劇『生田川』、鷗外訳でノルウェーの劇作家ビョルンソンの『手袋』であり、昨年度後期にはイプセンの代表作『人形の家』を上演しました。

一〇月の開講以来、演習では英訳に基づく島村抱月訳とドイツ語訳からの森鷗外訳を比較し、言葉の違いの違いや、原作をいかに削って

たり補ったりしたかを分析してきました。一月ははじめの授業で脚本作り。抱月訳の『人形の家』からは、かわいらしいノラが評判になった第一幕を用い、鷗外訳『アラ』からは、ノラが夫の所有物としてではなく一人の人間として目覚め

家を出て行くことを決意する後半部分の第二、三幕を脚本とすることで、翻訳の特色や表現の違いを比較できるように工夫しました。配役はくじ引きなので、男性役を女子学生が、女性役を男子学生が当たることもあり。翻訳の違いがわかるように、一幕と二、

三幕はWキャストで演じて好評でした。演劇を上演するのは二月初旬で、演劇発表会の日の前半には卒論・修士論文発表会もあります。四年生や院生も照明や裏方として参加し、学年を超えて学生たちが協力しあって演劇を作り上げていくことを通して成長していきます。

授業で学んだ作品を実際に上演することは、作品への理解を深め、人間として自立していくという『人形の家』のテーマが現在にも通じるものとして、演じる学生自身の心にも響く効果を生み、まさに未来の扉を開く文学教育の実践の場になっています。ぜひ一度観劇にいらしてください。お待ちしております。

追悼

母なる人『高成玲子』

人文科学研究科

谷口恵子



人の生涯の「あわれ」は、『源氏物語』のように、一千年も読み継がれるものがある。

『高成玲子』は、その生涯の働きと心の姿によって、物語られるのに値する人物である。あえて『』に入れさせてもらった。

二〇〇四年ラフカディオ・ハーン没後百周年記念の閉会の挨拶で、『高成玲子』は早くも、没後二百周年に向かって夢を紡ぎ始めていた。「ヘルン文庫」の継承である。その「富山八雲会」に力を入れ、ハーンの抱いた人間観や平和思考、学識への探求を自らも追究し続けた。富山国際大学教授として英文学を講義

する傍ら富山の国際化を紐解くように、「ヘルン文庫」に象徴される学問の潮流と富山県人の尽力の数々の発掘に奔走された。

『高成玲子』は、この没後百周年記念の際に語ったお気に入りの言葉「てんこ盛りのチラシ寿司」を人生の妙味と見通して有能な人力を見出しつつ登用しつつ、即ち別れを告げる暇もなく仲間たちの中を駆け抜けて行った。その摩擦熱がどれだけの人の文学への情熱となり、人間関係に必要な成長力や可能力の盛り合わせになったことか。食し切れないほどである。

二〇〇九年三月二六日にご逝去されてから、『高成玲子』を母胎とした「富山八雲会」は、萎れるどころか赤子のように母の意を継ぎ未来に羽ばたいている。すでに七号を数えた会誌は多くの方々の心からの追悼文も集めて今までにない頁数となった。六月の総会では追悼イベントとなった穴澤雄介コンサート「音

富山八雲会事務局長として長らくヘルン文庫の研究と一般への普及啓蒙に尽力された高成玲子さんがお亡くなりになりました。同窓会理事も務めていただいた高成さんのご冥福を心よりお祈りします。
(編集部)

楽と朗読による小泉八雲」を加え、例年の行事を盛会で終えることができた。これは『高成玲子』の準備の賜物と納得している。

『高成玲子』が子供たちに残したかった「八雲の英語紙芝居」プロジェクトも「ブラウネルの『日本人の心』」《仮題・高成玲子著》の遺稿についても、彼女が紡いだ夢のプログラムは、順に実現される予定である。

物語であればこそ、そこに表現され続けるものがある。登場人物は、母なる人『高成玲子』を記憶と創造のなかに育む。そして思い出を新たな物語へと「つかまえ」に行くのである。

(魚津市在住)

富山大学
同窓会連合会総会

去る七月二三日、平成二十二年

度富山大学同窓会連合会総会がカナルパークホテルで開かれ、西頭徳三名誉会長（富山大学学長）、中尾哲雄会長始め役員、顧問、同窓会員など一四〇名が参加した。連合同窓会副会長である松平義磨人文学部同窓会長の他、当会会員九名も参加した。二十年度決算承認の後、役員を改選し、新会長に理学部同窓会長の北野芳則氏を選出した。



続いて今年度事業計画・予算案を承認した。主な事業は

○ 親睦ゴルフ大会

五月九日（実施済み）

於 太閤山カントリークラブ
参加者 六七名

○ ホームカミング・デー

今年は杉谷キャンパスの大学祭に併せ、十月三十一日（土）の午後開催され、交流会や施設見学が予定されている。高岡キャンパスは実施しない。五福キャンパスは後日の検討の結果、実施しないことが決定した。

○ 支部活動の活性化

東京で開いている越嶺会、仰岳会、薬窓会の合同同窓会「五福会」をPRする。

議事後、ワンダーフォーゲル部OB会から「富山大学立山研究室（浄土の小屋）」の再建資金協力の要請があった。

また、二年間中止している大学祭を再開しようとしている学生実行委員代表から「富大五福キャンパス祭」について説明と協力要請があった。

さらに「地方大学のあり方を考える」をテーマにパネルディスカッションが行われ、活発な意見交換が行われた。

その後懇親会が開かれ、連合同窓会発足時から尽力された中尾前会長に花束が贈呈された。参加者一同、懐かしい交流を深め楽しいひと時を過ごした。

平成21年度人文学部 総会へのお誘い

拝啓 涼秋の季節となりましたが、皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度も下記の要領で総会・講演並びに懇親会を開催いたします。

多数の皆様のご参加をいただきたくご案内申し上げます。

敬白

人文学部同窓会長 松平 義麿

日時 21年11月14日(土) 午後1時30分

場所 ボルファートとやま

(富山市奥田新町81 TEL 076-431-1113)

講演

講師 磯部 祐子 教授

演題 人心を掴み したたかに演ず

—激動に生き続けた中国民間伝統芸能の現況—

中国の文学は、詩文のような「雅な文学」ばかりではない。夥しい「俗な文学」が存在する。唐の変文、宋から始まる語り物、清の伝統劇(オペラ)、宝巻など、これらは本来、唱ったり語ったりするものであり、その生命を今日まで繋いでいるものも少なくない。

しかし、多くは民間の宗教行為と関わりがあるため、60年代には禁止され、もはや「化石」と看做された。が、21世紀を前に、民衆の思念と芸能者のしたたかさは「化石」を蘇らせた。

中国伝統芸能の調査から、江南に生きる民間芸能の姿を報告させていただきたい。

懇親会：午後4時

会費：5000円(当日受付にてお納め下さい)

同封のはがき(現況通知・総会・懇親会出欠の回答)を10月30日(金)迄に是非ご返送願います。

第二回ホームカミング・デー及び

富大五福キャンパス祭開催のお知らせ

同窓会連合会役員会(八月二十七日)において、本年度のホームカミング・デーは、十月三十一日(土)に、杉谷キャンパスで開催されることとなりました。

その概要は次の通りです。

日程

十二時～十三時 学生と卒業生との交流会

十三時～ 施設等の見学
見学コース・施設

●医学部
病院コース、研究コース、看護コース
●薬学部
薬用植物園、和漢医薬学総合研究所、研究室(生物、化学、和漢薬学教育の実態(CBT・Computer Based Training))

当日は杉谷キャンパスの大学祭が行われており、学生主催の各種イベントも楽しむことがで

きます。

また、十月十日(土)～十二(月・祝日)の三日間、「富大」五福キャンパス祭が開催されます。

富山大学の現状を知り、同窓生同士さらには後輩の学生達とも交流・親睦を深めるよい機会です。挙って参加されますよう、ご案内致します。

年会費の報告

本年度の年会費状況をお知らせします。

平成20年6月1日～平成21年5月31日、394名(終身会費7名、年会費387名)の方々から457,000円の年会費を納入していただきました。

ご支援、ご協力、厚く御礼申し上げます。 人文学部同窓会事務局

一 訃 報

謹んでご冥福をお祈り致します

岩井 瑞枝(人間学教官)	平成21年9月14日
高成 玲子(英文25)	平成21年3月
小島 定俊(英文14)	平成20年3月
吉川健治(国文12)	平成20年9月18日
池上欣一(英文6)	平成20年7月19日
加藤 護(国文8)	平成19年

人文学部教官異動

(平成21年3月)

退官

○小川 洋通(英米言語文化)

○神徳 昭甫(国際文化)

着任

○熊谷 隆之(日本史) 准教授

○上保 敏(朝鮮言語文化)

講師

新刊案内

人文学部の先生の最新刊を紹介します。

「漢奸」と英雄の満州

澁谷由里／著 講談社 2008年1月刊 (講談社選書メチエ、404)

海域世界のネットワークと重層性

浜下武志／監修 川村朋貴／編 桂書房 2008年5月刊

遊びの力ー遊びの環境づくり30年の歩みとこれから

大村瑋子／編著 大西宏治／ほか著 萌文社 2009年6月刊

おしらせ

同窓生皆様の投稿をお待ちしています。近況報告、文芸作品、消息等お寄せ下さい。同封のはがきにその旨記載していただければ原稿用紙をお送りいたします。

「人文学部」のHPを本年度中に更新します。ご利用下さい。

編集委員

佐野 和美 志麻 愛子
田中 史子 成瀬裕美子
山藤 登